

平成 30 年度 第 1 回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：平成 30 年 12 月 3 日（月）

19：00～21：00

会場：市役所 4 階 第 2 委員会室

出席者：井上委員、笠島委員、杉森委員、千葉委員、野尻委員

鯖江市：中嶋政策経営部長、斉藤めがねのまちさばえ戦略室長、今宮主事

## 1 開会（19：00～19：10）

1. 委員紹介…事務局より紹介
2. 正副委員長選出…事務局一任により、委員長に井上武史委員、副委員長に野尻利雄委員を選出
3. 行政評価制度概要・外部評価実施手順…事務局説明
4. 外部評価対象施策抽出…事務局説明、委員了承

事務局：事前説明のとおり、事務事業抽出要領に則り、51 事務事業を抽出し、委員全員の抽出結果を集計し、外部評価対象事業を 4 事業とした。

委員：了承 ※抽出作業については、各委員に事前に依頼済みのため、委員会開催前に事務局に提出済み。

委員長：イベントが多いとの指摘からイベント事業を対象としたとのことだが、今回委員会では、事業の整理等を考えた方がよいか。

事務局：今回政策経営部長をトップに内部評価を十分に精査したつもりではあるが、今一度、市民の視点、委員の皆様の目線で厳しくチェックし、内部評価が妥当であるか判断いただきたい。

## 2 外部評価実施

### ① ふるさと鯖江検定事業（所管：文化課）（19：10～19：55）

<概要説明>（前田課長出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：予算のたまかな内訳を教えてほしい。会場代はかかっているのか。

所管課：ほぼ合格者へ渡す認定書の作成費用である。認定書は石田縞のもので 7,000 円。キッズの合格者には図書カード 500 円分を渡している。会場代は、まなべの館なのでかかっていない。

委員：問題が難しいと思う。受験者が減ったのはそのためではないか。難易度を再考すべきだと思う。また、色んな会合でテキストを配るなどして広報を図ってはどうか。

所管課：他のご当地検定同様、テキストを作成し、その中から問題を出しているのので、テキストを見ていただければお答えできる内容となっている。キッズ検定についても、

最低限知っておいてほしい内容に留めているつもりである。

委員長：検定を落ちた方が、次年にもう一度受けるということがあるのか。

所管課：そういった方もいる。毎年受けて合格される方もいる。

委員：新しい受験者はいるのか。

所管課：段々少なくなってきている。歴史ファンの方々は毎年受けていると思われるが、一方で、また歴史が問題かと思われる方もおり、産業観光をテーマにすることであらたな受験者の獲得につながるのではないかと考えている。

委員：もっと観光協会や商工会議所からの受験者を増やすべきかと思う。

委員：産業・観光をテーマにするとして、文化課が作成するのでは元々の趣旨と変わってくるのではないか。

所管課：内部評価の時点でも議論が上がったが、観光というテーマでも、半分以上は歴史の問題となる。産業・観光をテーマにするとしても、教育委員会がテキストを集め問題を作成するのが適切と考えている。

委員：受験者を増やす目的としてテーマを広げるのであれば、元々の趣旨である「文化活動の推進」とずれることになりかねない。合格者への認定書が高いという印象。本当に欲しい方は受験料を払ってでも受ける。文化財としての石田縞を知ってもらうということでは良い取り組みだが、認定書の単価を見直してほしい。

委員：大人向けでは講習会を行っているようだが、子供にはどのように学習させているか。

所管課：子供へもテキスト、資料集を学校へ配布している。

委員：子供への検定講習会や、見学会など通して検定を受けてもらうのはどうか。小さいときのうちに鯖江の歴史のことを学習していれば、大人になってもずっと覚えていられるので、小さいときの学習が大事。検定もただテキストを渡して受けさせるのではなく、学習会やまなべの館のイベントを通じての検定を行ってもらうのが良いと思う。

所管課：見学会など子供へのアプローチを行うとして、学校との連携は不可欠であるため、児童の課外活動などを行うにあたっては、学校側と十分に協議したい。

委員：難易度ごとに認定書の単価を変えてはどうか。難しいランクには石田縞織、簡単なランクはまなべの館観覧券のみなど。また、文化編、産業編、観光編などで分けると市民にとってわかりやすいのでは。検討してもらいたい。

委員長：きつ検定は31年度までとなっているが。

所管課：総合戦略の計画期間までとしている。その後、仕切り直し、新たな事業を検討したい。

委員：毎年テーマを設定しているのか。ネタがなくなる。同じ問題の繰り返しなど発生するのでは。

所管課：毎年テーマを変えている。しかしながら、委員のおっしゃる通りで、過去問から出題するなど問題が重複している部分もある。歴史・文化を中心に行ってきたので、鯖江の文化資源では、ネタが尽きてきている。テーマを変えることで受験者を飽きさせない工夫はしてきたが、その点が課題である。

委員長：問題は文化課が作らないといけないのか。リピーターなど複数回合格者を問題作成に回ってもらうのはどうか。市としても担当部署と連携する基盤を作ってもらえるとよい。また、産業・観光部門でよい成績を残した方に、観光ボランティアを担っていただくことやまちづくり活動への参加を促すなど、検定を活かす方法も考えられるのではないかな。

委員：受験方法として、会場に来てもらうのとネットでの受験といった方法もあると思う。回答を見てしまうなどデメリットもあると思うが、見ることがきっかけで学習するといった良い面もあると思う。ネット受験の場合は、職員の負担減や経費を落とすことにもつながるので検討してほしい。

委員長：事務改善というのは担当課での評価か。検定をいつまで続ける必要があるのか。

所管課：大人の受験者が減ったことから、受験者数を取り戻すということで事務改善とした。観光に特化しているわけでもなく、鯖江の様に問題の資源に乏しい自治体は、ネタが付き、検定廃止に陥っているようではあるが、鯖江市はふるさとを知ってもらい、郷土愛を醸成するということで始めているので、これまで続けてきたところである。

委員：鯖江市知ってもらうのであれば、リピーターではなくて、新規の方に受けてもらえるような工夫をお願いしたい。

委員長：極端に言えば、勉強しなくてもクリアできるような常識的な範囲を中級編として始め、受験へのモチベーションを上げていくといった仕組みはどうか。また、問題も他部署に作成してもらうのはどうか。

#### <方向性判断>

委員長：特に異論がなければ、内部評価同様、「事務改善」で良いか。(委員一致)

付帯意見として

- ・合格者への認定書単価が高いという印象がある。産業や観光へテーマの幅を広げることで受験者の増加も予想されるので、単価を下げるなどしてできるだけ予算を増やさないように努めてもらいたい。
- ・問題の難易度が高く、合格率も低い印象を受けた。合格率が高ければ良いというわけではないが、受験者が検定を受けて良かったと思えるように、級、グレードを設けるといったことを検討いただきたい。
- ・受験者について、KPIにも指標が上がっているようだが、鯖江を知ってもらうという点について、新規の受験者に受けてもらえるよう施策を考えてもらいたい。
- ・キッズ検定に関して、平日頃の学習や施設の見学を通じて吸収した知識が検定につながるような全体的なプログラムがあると良いのではないかな。
- ・ネット受験を行うなど、予算縮小、経費削減につながることも考えられるので、積極的にインターネットを活用してもらいたい。
- ・産業・観光の分野に広げるにあたっては、産業・観光を担当する部署も所管部署である文化課同様の当事者意識をもって、問題作成に関わってもらいたい。

② サバヌシ総会事業（所管：市民まちづくり課）（20：00：～20：55）

<概要説明>（宮田課長出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：予算額はサバヌシ総会のみか。成果指標では市民主役フォーラム、さばえ未来会議も含まれているようだが。

所管課：サバヌシ総会のみである。市民主役フォーラムは市と区長会連合会、さばえ未来会議は市民主役条例推進委員会が主催となっている。

委員：そうであれば成果指標に数を含めるのはおかしいのでは。

所管課：数のとらえ方の問題かと思う。事務事業評価上は別事業だが、市民主役フォーラムとさばえみらい会議を総括するイベントとしてサバヌシ総会を開こうといった経緯がありこのようにしている。

委員：参加者は重複しているものなのか。また、サバヌシ総会の実績報告では86名とあるが、成果指標の200名と乖離がある。

所管課：同じ方がそれぞれのイベントに参加することはあり重複している。86名は3部の参加者である。1部2部で118名であり、3部と合わせて204名としている。

委員：関係団体が占めているのでは、一般の方は何人ぐらいいるのか。

所管課：アンケートを見る限りは一般の方も多い印象である。

委員長：開催する主体の意向も踏まえて、成果指標の目標値は変えても良いのではないか。

委員：広報の手段は。

所管課：広報さばえ、市民団体へは郵送で案内している。

委員：チラシでは何をやるイベントなのかわからないように思う。団体ではなく、あまり（まちづくりの）活動されていない方に来てもらうのが元々の趣旨と思う。予算がH29で増えたのはなぜか。

所管課：H29は新規事業として行ったためである。H28は市民主役フォーラムの講師謝礼。

委員：新規事業として予算を増やした割には実績が伴っていないように思う。

所管課：集客については実行委員会でも議論があったが、動員をかけず、自発的な参加を促し、裾野を広げていきたいと思っている。

委員：民間委託した理由は。

所管課：提案型市民主役事業という制度があり、市の方でこういう事業をやりませんかと募集したところ応募があったためである。

委員：H30で予算が上がった理由は。

所管課：H30で市民主役フォーラム、さばえ未来会議を統合したためである。

委員：目標の500はNPOサポートが設定した数値か。

所管課：市の方で設定している。

委員：提案の段階で人数規模を想定しているか。

所管課：人数的なところは提案者側に求めている。

委員：来年度の提案書が出されていることだと思うが、目標値は加味した内容か。ただ、予算だけ考えれば良いというわけではないと思う。

所管課：指標は目安として捉えている。いずれ達成したい目標ではあるが、指標ありきではない。

委員：求める人数によって事業規模が変わってくるはず。意識できる標準の数値を設定し、共有すべきだ。

事務局：事業の中身が変われば指標の変更を行ってきた。この事業についても修正したい。

委員長：写真などを見ても決して少ないという印象はないので、現実的な数値を設定してもらおうと良い。ただ、来年度民営化するにあたり、補助となると市の指標が伝わりにくくならないか。

所管課：実行委員会へは市からも意向をしっかりと伝えていきたい。

委員：集客は大変である。市民の意識を高めていく必要がある。

所管課：市民主役を10年間続け、動員がなくてもこの人数が集まる程度には成果が出ているということだと感じている。また、各地区のまちづくり応援団養成講座などを通して、新たにまちづくり活動に関わる方の裾野を広げている。

所管課：今年度は2/11に開催予定。より多くの参加者を募るために、今年はまちづくり博覧会といった形で、様々な方にブースを出してもらって、より来やすい内容にと考えている。

委員：時期を考えた方が良いのでは。2月は季節的に危険か。

所管課：まちづくり活動の総括という位置づけで開催しているため、その時期になる。

#### <方向性判断>

委員長：特に問題なければ、内部評価同様、「事務改善」で良いか。

委員：目的、やり方の面で計画をしっかり煮詰めてもらいたい。

委員長：「事務改善」といっても手続きの面が大きいようである。内容的な面を委員会として検討してもらうこととする。

付帯意見として

- ・目標値はサバヌシ総会に直接かかわる数値に限定すること。また、1.2.3部に分けて集計する場合は、それに応じた目標値、実績値とすること。

### 3 閉会 (20:55~21:00)

委員長：次回開催は12月10日(月)19時から。